

義太夫

義太夫協会会報
 特集（豊澤仙廣）
 昭和58年9月29日
 社団法人 義太夫協会発行
 〒104 東京都中央区銀座
 6-18-2 新橋演舞場B2
 TEL (541)5471

豊澤仙廣さんの功績

義太夫協会会長 吉川 英史

界も吸収して、全国的な団体に発展することができたのも、仙廣さんの力によるところが大きい。

そればかりか、協会は毎年恒例の義太夫教室を開催して、実技を通しての義太夫の普及に効果を挙げているが、このような実績は、邦楽界広しといえど、他に例がない。更に、義太夫節保存会が設立され、重要無形文化財の団体指定を受けることになったのも、本牧亭公演の灯を絶やさず、伝承の努力を続けた結果であり、そこにもまた、仙廣さんの力が働いていたことを忘れることはできない。

女流義太夫界から初の人間国宝を生み出す

毎月二十日と二十一日には、東京上野の本牧亭で、女流義太夫の公演が行われている。猛暑も酷暑も休むことなく、毎月二回の公演を続けている団体が、ほかにあるであろうか!? その原動力となっているのは、豊澤仙廣さんの熱意である。いや、熱意ばかりでできることではない。物心両面の、永年にわたる貢献によるものである。

社団法人義太夫協会の設立に対しても、仙廣さんの功績は量り知れぬほど大きい。その協会の主体をなしているのが女流義太夫であるのは無論だが、歌舞伎や舞踊の義太夫―竹本―を併合し、大阪や名古屋の素浄瑠璃

ことができたのは、もとより竹本土佐廣さんの芸の実績によるものではあるが、もしも仙廣さんの努力と貢献による本牧亭の公演が続けられなくなっていたら、―土佐廣さんの芸の公開の場がなくなっていたら、と考えると、春秋の筆法をもってすれば、土佐廣さんを人間国宝にしたのは、豊澤仙廣さんであるといえるだろう。

とにかく、仙廣さんの熱意と頑張りには、頭が下がる。その点は、文化庁公認、NHK公認である。私に会長は譲っておられたが、正に大物の副会長であった。その仙廣さんが、私に向かつてよくいわれる言葉に、

「私が尊敬しているのは、灘尾先生と吉川会長です。」

というのがある。灘尾先生とは、自民党の代議士で、衆議院議長もつとめた灘尾弘吉氏のことである。

(2頁下段へ)



ごあいさつ

義太夫節保存会会長
義太夫協会前副会長

豊澤 仙廣

みのりの声もうれしい初秋を迎え、皆様にはいよいよ御機嫌うるわしくお過ぎの事とお喜び申し上げます。

ハリキリマダムと言われてあきる程した商売、何をしても順調で失敗の苦勞を知らぬ私、三年前から新小松をぼつぼつ後継者にゆずりながら、義太夫協会の仕事と共に、清六師にならぬおぼえた三味線を命がけで取りくみ、文化庁より義太夫節保存会、また勲四等叙勲の栄を頂き、天皇陛下より身近に祝の御言葉を賜り、この上ない喜びばかりでしたが、だんだん耳が年とって三味線の調子が覚束なくなつて八十三歳、こればかりはどんなに努力しても仕方のないことと、舞台上に別れをつげる気持になりました。昨年、大病をいたし、大阪因会での祝賀会を最後に舞台出演できなくなつて一年間、七年の歩み、舞台上に別れをつけることの淋しさ、つらさ、お笑い下さいませ。

の事は体の続く限りさせて頂きたいと存じております。

六月の役員改選で、十二年間つとめた協会の副会長を辞任、若い副会長を二人選出、協会もすべて若返りました。舞台に出る姿、髪形、何にでも口うるさい副会長が辞任したので、役員のうちにも、また若手の中にもやれやれと安心した人もいるでしょう。本牧亭月例二日間の公演、どうしてもお客様のお気に召すか、二度三度と足を運んで下さるか、そればかりが心配で苦勞する私の気持を理解してくる人は少ないのです。しかし、老人の口うるさいのもういかげんに止めなくてはと、気が付いております。今後は、何事にも程々に致しますから、今日までの失礼、平にお赦し下さいませ。朝重・駒之助両副会長の指導のもと、若手もきつと勉強して名人のタマゴが生れることと存じます。米寿までも生きぬきたいと若手の成長を楽しんでおります。十二年間に亘る皆様の御支援・御厚情並びに、「女流義太夫の今昔」公演を盛大に御後援下さいました皆様に、厚く厚く感謝、御礼申し上げます。

(1頁下段より)

たまたま、仙廣さんも、灘尾さんも、私も、広島県出身である。同郷のよしみで、仙廣さんの頭の中で、つい三人が三つ巴となつて浮かび上がるのも知れない。

とにかく、くすぐったい思いで聞くのであるが、それは差し向いの時に聞く言葉だからまだよいとして、義太夫協会の会合や催し物の席上で、

「私どもの会長は、日本一の会長です。この会長を戴いている義太夫協会は……」と、あの威勢の良い名調子でいわれると、さすがの私も、テレ臭くて、穴でもあつたら入りたい思いである。そこで、この際返礼に仙廣さんに贈る言葉を、誇張なしに書いたのであるが、結びとして、仙廣さんにふさわしい敬称を贈りたい。

私は、仙廣さんのことを頭に浮かべると、古曲界の人間国宝で、一中節の名手だった都一廣(篠原治)さんを思い出す。男だったら総理大臣にでもなれた人である。女傑であった。仙廣さんには「義太夫界の女傑」という敬称はいかがであらうか。

感謝と尊敬をこめて、この文を終る。



仙廣さんの 労をねぎらって

財団法人形浄瑠璃因協会

会長 大阪市長

女傑

豊澤仙廣さんと

社団法人義太夫協会

義太夫協会の役員各位及び会員の皆様が、伝統芸能である義太夫節の普及と発展のために活躍され、大きな成果をあげておられることを嬉しく思っております。

義太夫節は、江戸時代に大阪で生まれた町人文化を代表する芸能のひとつですが、その芸術的価値が高く、語りものとして最も複雑な内容と形式を持っていることから、昔から音曲の司といわれております。誕生以来、後継者に人を得て、名手高手を輩出し、また明治の頃は「娘義太夫」が大変な人気を呼び、今でいう「スター」が沢山おられたとのであります。

戦後は、一部の方々の献身的な努力で、この伝統芸能は支えられてきましたが、最近では若い人達も含めて義太夫節に対する関心が高まり、その保存伝承と振興発展に明るい陽ざしが差し込んできたと言えるでしょう。

昨年六月に、本協会主催の女子部会員による「第五十回素浄瑠璃特別公演」を開催しましたが、人間国宝に指定された竹本土佐廣さん、勲四等瑞宝章を受章された豊澤仙廣さん、そして竹本春華さんが東京から出演され、第五十回公演に花を添えていただき、大変な盛況でありました。また昨年十一月には、豊澤仙廣さんを義太夫節の伝承と振興に貢献されたことに対して、大阪市民表彰の文化功労者として表彰申しあげました。

このたび、豊澤仙廣さんが義太夫協会理事・副会長を辞任されますが、長年にわたり義太夫節の伝統を守り、その普及と発展に尽力されましたことに対して深く敬意を表しますとともに、今後とも名誉会員としてご健康で活躍されますようお願いいたします。

鈴木 一光

わたしは昭和三十八年迄「東都素義五十義会」の副会長を勤め、その後「東京素義婦人会」の世話人をして居りました。この時代迄は、全国各地、義太夫会は股賑を極め、交流も多く、小生も友好のため、大阪、京都、神戸、四国、九州の各会へ数多く出演しました。昭和四十五年頃、豊澤仙廣師のお世話で、松岡語松氏、故菊地秋月氏に小生と、三味線は同師と故豊澤猿幸師で、三人の語る会を新小松で数回催し、菊地氏物故後休会して居ります。

其の頃仙廣師は、義太夫協会を永久保存のため社団法人にすることを決意され、この創立に要する基金支出の依頼があり、松岡氏、菊地氏は多額賛助され、小生も少額ながら支出しました。この法人の設立迄の仙廣師の苦労は並大抵ではありませんでした。文部省の許可を得るため何回となく申請に足を運び、関係名士の応援により漸くにしてこの社団法人義太夫協会の設立が実現しました。同師のそれ迄の行動は物心両面にわたり、他の人では到底出来得ない仕事でした。

わたくしはこの婦人を敢えて女傑として尊称致します。このたび、健康のため後進に路を譲り役員を辞任されることは、誠に残念な次第であります。

今後、新役員は吉川英史会長の下に益々発展に努力され、往時の義太夫界に優ることを祈り居ります。

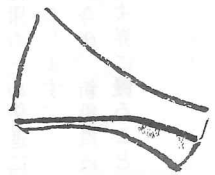
(常任相談役)

仙廣さんと

私と

義太夫節

河野國声



て義太夫を忘れられないので、一計を案じて蓄音機のレコードを買ってきて、家で夕食後義太夫を聞くことにしました。古鞞・清六が三十枚もあるので、レコードに合せ合唱して覚えしました。朱を入れると、ただ聞いているより三倍も早く覚えられます。これを皆様に伝えたいことが、私の申し上げたいことの第一です。

呂昇の有楽座出演というのは、大正の始めだったと思います。呂昇・東広一座。東広さんとは、京城で東広さんの会に、今の仙廣さんに弾いて貰って出たことがあります。昭和十四年だったと思います。私は古鞞レコードと同じに語り、仙廣さんは清六さんの三味線そのままを弾く、私と仙廣さんの義太夫はどこからどこまでピタッと合う。そうして、語ったあとテープを聞いて反省する、ということも必ずいたします。いま仙廣さんのように熱心に義太夫の三味線の稽古をしている人は少ないと思います。ヒマがあると録音を聞き三味線を弾いております。熱心、偉いものであります、もう舞台を退くと言ってから義太夫は弾いております。仙廣師は、あれだけの遣り手でありますから、兎角、まわりからあれこれ言われましょう。どうして、あなたにキツイ人間が出来たのか、あれは母親の遺伝であります。あの人の母は立派な人であった。彼女も立派である。子供達も皆成功して、人間性が立派であるという今井一族の繁栄についても、私は、長男氏が生れる前か

報々々々々々々々

協会で此の度、仙廣師の特別会報を出されるという、そして仙廣師に個人としては一番関係の深い河野國声に何か記事を書けという御依頼がございましたが、何を申し上げようか。私と仙廣師は、義太夫だけでなく、仕事上の関係も多く、昭和十三年から、四十五年に亘るおつき合いですから、書くことはいくらでもあります。私は、義太夫に対するお願い・希望・義太夫の将来に対する人並ならぬ熱意がありますために、常に思い続けていることをまず先に述べてから本文にかかりたいと思います。

私が義太夫界に入ったのは二十二歳、社長の秘書をしていた頃のことです。社長が清一さんという立派な師匠に稽古して貰うとき、次の間について、社長より早く柳と十種香を覚えて一人口ずさんでいたのを、清一さんが「弾いてあげましょう」と弾いてくれたのが始まりで、大正八年のことでありました。それが病みつきで、東京中を語り歩いたのです。本に自分にしかない朱をつけて覚えるから、

たいてい覚えてしまう。若い者の頭の良さ、熱心さに、老人はかなわないことを、その頃知りました。

けれども大正十二年の大震災の朝、稽古をして、千葉までの用事で東京を離れた処、東京は大震災、九十九里に家内の別荘がありましたので、その晩はそこに泊り、翌日、自転車で東京に入って参りました。戦災もひどかったが、震災もひどかった。当時、玄人の女義太夫の席は、宮松・東橋亭・本郷の若竹・牛込通り寺町の牛込亭には、竹本朝太夫、三味線は、たしか初代の豊澤松太郎でしたか。どちらもキツイ顔をして……今でも目に浮んで参ります。安藤鶴夫君のお父さんも、都太夫といつて四枚目に出ておられました。大正十二年の震災で私はブツツリ義太夫をやめた、というのは、あれほどの死者があった災害のあと、若い者が義太夫など語っていては相済まぬとの良心、義理・人情のしからしむるところでありました。けれども、どうも口が寂しい、というより、体がムズムズし

ら知っているだけに、一人一人をほめてあげたい位であります。

昨春秋、急病の時、重症の脳外科の手術に成功し無事に退院、私はその試し弾きのため十一月十一日、紙治を語りましたが、全一段何の疲れもなく弾き終りました。その後、今日まであれこれと弾いて貰いましたが、一度も調子も狂わず、むしろ病氣前より元氣のようですから御安心下さい。土佐広師とのコンビを解消してしまおうというのは、全く惜しいことだと思えます。大阪では、あれだけ盛大に、土佐広人間国宝・仙廣勲四等のお披露目があり、大阪市長から感謝状を頂いたほど面目をほどこしながら、これが終りとは何という情ない。私はそれが残念でなりません。あれほど土佐広さんを弾くことを喜んでいる師匠に何故——仙廣師はウデがなっているのではありません。

二十九日、国立の会で、野崎の段切に若手をひき連れて出演するのが、仙廣師はシャレた引っ込みだと思っっているようだが、私には大いに不服であるからこう言いました。「仙廣さんが三味線を弾くの退くなら、私も義太夫を語るのをやめるよ」——すると「私がおんなに毎日三味線を稽古して楽しんでるのに、河野先生が語らなかつたら、いつ床に上れるの」と怒ったような調子で言う。「——これは驚いた、そうなる私も勉強して仙廣さんのウデのなるのを食いとめねばならぬな」と、仙廣師ほどの人を素人義太夫の私一人が独占するのは勿体ないと思うが、死ぬま

で義太夫を語ることを余儀なくされた次第であります。

さて、以上舞台のことを申し述べましたが、東京の女義界をこれほどまでに盛りあげた仙廣師が、すっぱりと副会長を辞任した未練のない引き揚げぶりは、兄貴分の私でもその思い切りのよさに感心々々、絶讃の思いです。義太夫協会では、ワンマンすぎてうるさいとか、ついてゆけぬと敬遠する人もあったことを耳にしているので、丁度よい時期だから、さっさと引っ込むがよいと私も助言したが、彼女は利口な人ですから、さらっとした気持で決意し、会長に申し出、総会でも皆様の御同意を得た由、万万歳です。そして、吉川会長の人格と御努力が、今後十分に発揮できるよう、若手のまじめで芸術熱心の朝重さん・駒之助さんとが並んで副会長になられたことは、義太夫界の若返りに熱心な努力とが期待されて万万歳、お祝を申し上げます。古い義太夫を若返らせ、若い太夫・三味線の育成、これを大いに期待いたします。

最後に、私は、日本全国の百歳以上の人達二千人近くの実質的会長ですから、仙廣師はじめ、土佐広・団司・三生各師に百歳までも活躍して頂きたく、御養生専一にお願ひ申し上げ、この稿を終りたいいたします。

(常任相談役)



太 夫 河 野 國 声 氏 三 味 線 豊 澤 仙 廣 師

仙 廣 師 名 誉 会 員 に
土 佐 廣 師

九月二〇日、本牧公演席上にて、当日急病の吉川会長に代り、佐々木明郎監事より、土佐廣・仙廣両師に、感謝状と記念の品が贈られました。明治期に竹久夢二らの血を湧かせた竹本小土佐(昭和52年、105才で逝去)に次ぐ名誉会員の誕生です。

豊澤 仙廣 — 略歴 —

- 明治32年10月26日 広島県三次に生る。
 45年 竹本長広に入門、竹本長久となる。
 大阪千日前「播重」にて修業す。
 大正7年 豊澤小住に師事。
 8年 大阪因協会入会、現在古老。
 9年 豊澤仙系に入門、豊澤仙廣となる。
 昭和21年 仙系歿後、四世鶴澤清六に師事。
 36年 清六歿まで、十五年間、稽古日は一日の休みなく修業す。
 38年 義太夫協会副会長
 43年 大阪文化祭賞
 43・49年 人形浄瑠璃因協会賞
 45年 社団法人義太夫協会副会長
 55年 重要無形文化財義太夫節保存会
 会長
 56年 芸団協第七回芸能功労賞
 57年 勲四等瑞宝章
 大阪市民表彰
 58年 社団法人義太夫協会名誉会員
- その他、観光事業での功労に対しては、昭和46年、藍綬褒章、56年 紺綬褒章を始め数多くの表彰がある。

祖 先 祭

義太夫節の祖先・竹本義太夫が、貞享元年（一六八四）に義太夫節を創設して来年は丁度三百年にあたります。また、東京に女義隆盛のきっかけを創った竹本京枝が名古屋より東上したのが、明治十六年（一八八三）といえますから、今年で満百年になります。

祖先祭は、近年は年末に行っておりましたが、今年は十月十日（体育の日）に行うことになりました。両国・回向院には、竹本義太夫、女義史上最大のスターというべき初代竹本綾之助の墓所、他に著名なところでは、江戸時代の戯作者、山東京伝・京山、鼠小僧次郎吉の墓もございいます。例年は、正会員と役員とで御供養しておりますが、一般会員の方もよろしかったら御参加下さい。

記

昭和五十八年十月十日（月・祭日）
 午前十一時～午後二時
 。両国・回向院（日大講堂となり）
 （お問合せ・お申込みは事務局まで）

編集後記

前副会長、豊澤仙廣師の数々の功績に感謝し、敬意を表する意味での「特集号」いかがでしたでしょうか。副会長の辞任については、前号28号にて御報告いたしました。舞台を退かれることについては、本号を御覧になって驚ろかれた方も多いかと存じます。仙廣師の決意は固いようですが、協会会員の中には「そんな寂しいことは言わないでー」という声しきりです。仙廣師が、はじめをつけた気持ちも判らぬではなし、さりとして、また去り難い心中も察して余りあるところ……それは、私共の想像以上の複雑な心境であろうと、胸が痛みもするし、また、河野国声さんのいわれるように、そのいさぎよさに感服もいたします。「いいおばあちゃんになるからネ」と仙廣師は近頃よく言われますが、そう簡単に「御隠居さん」に納まられても心細い。まだまだ苦勞をおかけすることになるでしょう。楽隠居は、当分先ではないでしょうか。

〈お断り〉

前号でお約束した58年度決算報告、協会会員の異動等は、諸般の事情により、次号に延期させて頂きました。どうか悪しからず御了承下さいますようお願い申し上げます。